



好きこそものの上手なれ



早いもので、令和7年も残すところあとひと月となりました。校庭の木々も冬の装いに変わり、子どもたちの元気な声が、寒さの中でも温かく響いています。

先日、「生誕 100 年 山下清展」に行ってきました。山下清さんは、旅先で見た景色を心に刻み、その景色を色紙（いろがみ）をちぎって貼る「ちぎり絵」として表現した、日本を代表する“放浪の画家”です。12歳のときに「八幡学園」へ入り、そこで初めて「ちぎり絵」に出会いました。最初の頃の作品は、平面的で、ちぎった色紙もそれほど細かくありませんでしたが、作品を重ねるにつれ、自分が見たものを再現するために工夫を凝らしていきます。色紙なので、絵の具とは違い、混色ができません。そのため、色が単調になり、色調の変化やグラデーションが付けにくいのですが、山下清さんは、色紙を細かく細かくちぎって3mmほどの大きさにして、少しずつ色を変化させることによって、見事なグラデーションを表現しました。また、色紙を細くちぎって棒のようにした「こより」を使うことにより、立体的な線を表現したり輪郭線に使ったりすることで、立体感のあるすばらしい作品に仕上げました。私は、これだけの色紙をちぎっては貼りちぎっては貼りを繰り返して作品を完成させることは、本当に気が遠くなる作業だと思いました。好きだからこそできることなのだと感じました。

最近では、授業や休み時間など、自分の“好き”を見つけた子どもたちは夢中になって取り組み、その集中力や成長に驚かされます。算数が好きで毎日こつこつ掛け算九九を練習する子、読書が好きで図書館に足を運ぶ子、GoDo ノートに自分が興味を持ったことを調べてまとめる子…。好きなことに向かう姿には、誰に言われるでもなく自ら学びを深め、工夫し、挑戦し続ける力があります。「好きこそものの上手なれ」です。それは、これからの時代を生きる上で最も大切な“学びの根っこ”です。

12月是一年のまとめの時期です。子どもたちには、この一年で自分が「好きになったこと」「がんばったこと」を振り返り、新しい年に向けてさらに力を伸ばしてほしいと願っています。保護者の皆さまには、寒さが厳しくなる折、お子さまの健康管理へのご協力をお願いするとともに、今年一年の学校教育活動への温かいご理解とご支援に心より感謝申し上げます。

11月のできごと



ぶいについて学ぼう
(3・4年生)



吉原北中学校区合同
学校運営協議会
各学校や地域のことについて話し合いました。



今宮なかよし会のご協力による「にこにこやきいも会」
(1年生)